

令和6年度 第2回 教育研究所運営に関する懇話会

- ◆ 日 時 令和7年1月24日（金）10:00～11:30
- ◆ 会 場 教育研究所 第2研修室（対面、オンライン同時開催）
- ◆ 出席者
 - 座長 小板橋 貴久（常葉中学校長）
 - 運営委員 高橋 直樹（鶴久保小学校長）
 - 〃 米持 正伸（横須賀総合高等学校長）
 - 〃 佐藤 とみ子（大津小学校長）
 - 〃 三宅 豊（不入斗中学校長）
 - 〃 鈴木 史洋（教育指導課長）
 - 教育研究所職員 梅谷 尚子（教育研究所長）
 - 〃 矢本 歩（教育情報担当課長）
 - 〃 田山 雅也（主査指導主事）
 - 〃 伊東 誠司（主査指導主事：研修・調査研究担当）
 - 〃 濱田 広治（係長：管理運営係）
 - 〃 新谷 美紀（主査指導主事：ICT活用進担当）
 - 〃 三ツ堀 幸正（主査：ICT環境整備担当）
 - 〃 浅見 浩（指導主事：研修・調査研究担当）
- ◆ 傍聴者 0名
- ◆ 次 第（司会：教育研究所 主査指導主事 田山、記録：会計年度職員 棚橋）
 - 0 議事進行上の確認事項
傍聴に関する確認
 - 1 開会
 - 2 所長・担当課長あいさつ
 - 3 議事
 - (1) 令和6年度 教育研究所 事業報告
 - ① 事業報告概要について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・梅谷教育研究所長
矢本教育情報担当課長
 - ② 研修・調査研究担当事業（研修）について・・・・・・・・・・・・伊東主査指導主事
 - ③ 研修・調査研究担当事業（理科）について・・・・・・・・・・・・浅見指導主事

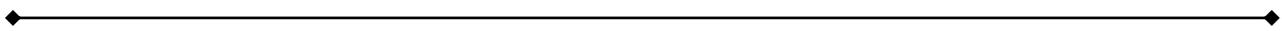
- ④ 研修・調査研究担当事業（人権・調査研究）について・・・田山主査指導主事
 - ⑤ 管理運営係事業について・・・・・・・・・・・・・・・・・・濱田係長
 - ⑥ ICT 活用推進担当事業について・・・・・・・・・・・・・・・・新谷主査指導主事
 - ⑦ ICT 環境整備担当事業について・・・・・・・・・・・・・・・・三ツ堀主査
- (2) 今後に向けて

4 連絡

5 閉会

[資料]

- 1 教育研究所の運営に関する懇話会第2回次第
- 2 教育研究所運営に関する懇話会の傍聴要領
- 3 令和6年度 教育研究所 成果と課題
- 4 教育研究所諸事業に関する意見用紙（集約）
- 5 令和6年度 教育研究所 要覧



◆ 議事録

0. 議事進行上の確認事項（進行：主査指導主事 田山）

教育研究所運営に関する懇話会の傍聴要領
傍聴者0名

- 1. 開会（進行：主査指導主事 田山）
- 2. 教育研究所長・教育情報担当課長あいさつ
- 3. 議事：令和6年度教育研究所事業報告についての説明及び質疑

- ① 事業報告概要について 梅谷・矢本
- ② 研修・調査研究担当事業（研修）について 伊東
- ③ 研修・調査研究担当事業（理科）について 浅見
- ④ 研修・調査研究担当事業（人権・調査研究）について 田山
- ⑤ 管理運営係事業について 濱田
- ⑥ ICT 活用推進担当事業について 新谷
- ⑦ ICT 環境整備担当事業について 三ツ堀
- ⑧ 質問・意見等（次ページ以降詳細）

(01:00:23)

小坂橋議長： どうもありがとうございます。事業報告については一括でということでしたので、まずは質問を取りたいと思います。その後意見を伺いたいと思いますので、その順番でお願いします。それでは質問がある方は挙手をお願いします。

高橋校長： 1 ページの研修調査研究担当の研修のところの「2 番」選択研修の一番下ですが、令和6年度「授業づくりワークショップ研修講座」というのを新設されました。その具体的な内容と、研修の効果についてお聞きできればと思います。

伊東主査： ありがとうございます。授業づくりワークショップ研修について簡単にご説明をさせていただきます。本年度については3回授業づくりワークショップ研修講座を設定しておりまして、対象となっている初任者研修講座受講者、1年経験者研修講座受講者、そしてもう1回予定されていますのが2年経験者研修講座受講者となります。設定した時間については研修終了後というような形で設定をしていますので、「希望者」というような形で参加者を募りました。研修の参加人数についてはどの研修についても5から10名程度というような範囲の中で収まっております。先ほどご説明させていただいたように、小さいグループに分けて、日頃の授業の悩みであるとか、研修を受講した際に出てきた自身の感想であるとか、そういうものを共有しながら、次に向けての授業づくりに役立てていくというような形で設定をしました。受講者からも振り返りを提出していただいています。少ない人数で話せることが良かったというところが一番大きな感想として上がってきています。

小坂橋議長： 効果があったということが報告で分かりました。では他にご質問がある方いらっしゃいますか。

議長の私からもよろしいでしょうか。情報化推進のところで、先ほど新谷主査からありました持ち帰りについてのことです。端末の持ち帰りについてパイロット校の状況を整理していただきましたが、現在小学校、中学校のパイロット校は横須賀市にどのくらい存在していて、どの程度やっているのかということ。それから今後、校長の判断で研究所に確認しながら平常時、つまり一般の生徒も持ち帰りができるようになるという方向だ、という確認でよろしいでしょうか。生徒によっては、例えば勝手に自宅の

パソコンにアクセスして家で作業をやってしまうとか、予習復習をやって授業に当たるとか、中学生レベルでそこまでできてしまうのかどうかという点について、セキュリティについても含めたところで、お聞かせください。

新谷主査 : ご質問ありがとうございます。まずパイロット校については、令和6年度に中学校では坂本中学校、小学校では城北小学校にそれぞれお願いをして毎日の持ち帰りを実施していただいています。パイロット校の実施状況については、取りまとめて検証していきたいと思っておりますが、概ねこちらが予想したよりも、持ち帰りに関わる端末の破損や故障といったものはありませんでした。今情報として上がってきているものは坂本中の1件のみです。ただこちらが想定していなかったものとして、やはり端末忘れや充電忘れが多い状況が見えてきましたので、そうしたことに対する整備は進めていかなければいけないと考えています。また実際に端末を持ち帰って何をしているのかということについても、報告を上げてはいただいているものの、改めて細かなことについては、この後、本年度中にパイロット校から聞き取りをしたいと考えております。

2点目の先ほどお話したガイドライン上の規約に関わるのところについて、全市一斉に持ち帰りをスタートしますよというのは、まだ始められない状況です。ただ、学校の状況や子ども達の声から「持って帰って勉強したい」というような声を上げている学校もあるようなので、そうした場合には諸々の課題はこちらでフォローしきれない部分があるものの、校長先生の判断のもと、実施していただくのは構わないと考えています。ただし、いろいろな課題について確認をさせていただきたいので、一度教育情報担当に電話をいただいて、それが大丈夫ということであれば、実施していただくというような方向で考えております。また持ち帰りをしなくても、子ども達が既にGoogleのアカウントを持っておりますので、自分の家の端末やタブレットからアクセスすることは可能になっています。セキュリティ面に関して言えば、学校のネットワークから離れたときに、アカウント単位にフィルタリングがかかるように設定をしているので、ある程度のリスクや、危ないサイトに行ってしまうというようなことはないと考えています。ただ、100%全てのトラブルから回避できるかということそうではないので、そうしたところは各学校内の活用に合わせて情報モラル・セキュリティや、先ほどの調査研究の報告にもあったデジタルシティズンシップという考え方を、子ども達には各学校の中で推進していただきながら、持ち帰りにおいても家庭での活用においても、同じだということで伝

えていっていただきたいと考えています。

小坂橋議長： わかりました。ありがとうございます。では他にご質問はいかがでしょうか。

高橋校長： ICT 環境整備の電子黒板についてです。中学校では導入されて、事業に対する意見の中にも、電子黒板を 8 割以上の教科で活用しているということで、今の中学校で有効に活用しているという情報が小学校にも入ってきています。小学校への導入について、事前に必要な機能や大きさなどを検討した上で予算要求に向けて検討していくということですが、一部の学校では次年度小学校にも一部入るのではないかという期待もあったのですが、見通しについて教えてください。

三ツ堀主査： 電子黒板の導入につきまして予算要求の状況として、次年度は今のところは予算要求を出してはいません。ただ次年度中には電子黒板の何台かを学校に入れさせていただいて、教室に入るかというところを調査させていただければと考えています。35 人学級だと、おそらく教室のイメージとして入口のあたりに置けない学校が、中学校では複数ありましたので、その辺りを次年度は確認させていただいて、令和 8 年度以降に向けて調整させていただきたいと思います。

小坂橋議長： それでは他にいかがでしょうか。

すいません、また議長で申し訳ないですけどちょっと気になるので確認させてください。環境整備担当にお願いします。先ほどの中で、いわゆるもう 5 年ぐらい経つということで、更改時期を迎えるということで、順次更改ということでいいと思いますが、ある大きな市でやはり更改をやったら大混乱してしまい、入試は昨年からネット出願になっていて、そこでの影響もありそうなところが見受けられたのですが、横須賀市としてはその更改の仕方とか見通しがあれば教えていただければと思います。

三ツ堀主査： ネットワークのことでしょうか。端末のことでしょうか。端末についてですね。端末については国からの補助金が、県の基金という形で用意されて、基金を活用した共同調達というものを神奈川県下で適正に行っています。その中で横須賀市は、令和 8 年度の入替えを目指して調整を進めているところです。お問い合わせいただきました順次なのか、一括なのかということで申し上げますと、一括を想定しています。ただ混乱のないように、担当の授業にご迷惑をおかけしないように夏季休業期間手での入

れ替え等を検討しております。平日の日中帯で行うと非常に授業に差し障ると思いますので、影響のない形で進めていきたいと考えております。

小坂橋議長： はい、ありがとうございます。他はいかがでしょうか。

三宅校長： 先ほど情報の ICT 活用推進のから、校務機からの Google へのアクセスを一部開放したというお話がありましたが、今はどうしても校務機と Chromebook の 2 台扱いでやっていかざるを得ないような状況がありますが、これからの見通しの中で 1 台にまとまっていくはあるのでしょうか。

新谷主査： ご質問ありがとうございます。すぐにとということではないですが、国の動きとしても、校務系の端末と学習系の端末を一つにしていく動きを進めていくような指示が出ているところです。ただそのためには、個人情報も多く扱う学校ですので、セキュリティ問題などを解消しなければなりません。あとはネットワークの学校内での整備の問題など、そうしたところも対応していかなければいけないと感じています。方向性としては、検討の中の一つにはありますけれども、今すぐにそれが実現するかと言われると、まだもう少し先の話になるかなというところではあります。

小坂橋議長： 他にいかがでしょうか。

高橋校長： 昨年マチコミメールが導入されて、先ほどもご挨拶の中で欠席連絡ということで大変助かっています。マチコミメールの担当課は、どちらになりますか。

矢本課長： マチコミについては本年度から本格的に始まりましたが、導入に関しては教育情報が担当して、その後のどのような文書を送るといような運用面は、教育指導課が担当しています。

高橋校長： 関連して、導入の際に教育委員会から直接保護者宛にメールが送られる機能もあるとのことでしたが、未だおそらく 1 通も送られていないかと思えます。そのあたりの基準みたいなものが何かあるのでしょうか。

小坂橋議長： 鈴木課長、そのあたりいかがでしょうか。

鈴木課長： その点については教育指導課が窓口になって現在各課と調整を進めているところですが、それぞれの課が持っている事業の中で、保護者に直接お伝えしたいと考えられる案件が、当初の予想より多くあるということがわかっています。それを全てマチコミで伝えられるかどうかということ、

今検討しているところです。頻繁にマチコミで教育委員会から直接連絡が届くことによって、そういったことに慣れてしまってよくご覧いただけないということも、懸念としてあります。今後の課題ですが、何とか年度内には整備して、次年度以降は実現させたいということで動いております。

小板橋議長： 今まとめているということですが、内容的な部分としては、災害とか安全を担保するためとか、大きな部分になるのでしょうか。想定されるのは、例えば全市的に安全面の部分であるとか、防災、防犯とか、そういう内容になるのでしょうか。

鈴木課長： はい。現在も例えば台風等によって市一斉に臨時休校と判断するようなことがあれば、直接マチコミを使って情報を提供するという事は考えています。それ以外のことも、どこまで広げられるかというところで、検討を進めています。

小板橋議長： ありがとうございます。他に質問ですがいかがでしょうか。とても細かい部分で申し訳ないですけど、二つよろしいでしょうか。一点は調査研究資料、情報提供の田山主査の部分と、もう一つは ICT 環境整備担当の三ツ堀主査をお願いします。

まず図書の貸し出しの部分で、例えば私がまだ教員になりたての頃は、研究所に VHS の歴史、例えば戦国時代などを借りに行ったり、教材研究をするためにみんなで通ったりした部分がありました。今回の資料を見させていただくと、資料を処理して収集発信のところで、DVD の貸し出しは一点、資料の数が 2 件という数でした。今の若い先生を見ると、DVD を借りて研究するよりも、YouTube など自分で資料を引っ張り出して、不適正にならないギリギリのところうまく加工しながら授業をしています。このようにたくさんの貸出品がある中で、今後指導や教材研究にあたってそのような貸出の部分はどう捉えていくのか、今後また全く違ったやり方で資料提供をするのか、その辺の部分の一点。

それからもう一点。ホームページの掲載の中で不適切なものがないかチェックを行ったということですが、その不適切なものというのは例えばどのようなものでしょうか。私が想定しているのは、例えば生徒の名前と本人が一致してしまう個人情報が入ってしまったり、あまりにもホームページに映すには耐えられないものだったりですが、どれぐらいあったのかも含めて教えていただければと思います。

田山主査 : ご質問ありがとうございます。図書の貸し出しについて、私から回答いたします。研修図書につきましては、本自体の貸出は前年度より12月の時点で50件ぐらい増えている状況です。研修の後とか研修前に図書室を利用して本を読んでいる方も見受けられるので、研修図書に関しては毎年研究所の予算で最新の教育情報に関する本を取り揃えています。そうしたところでは、充実した貸出ができていますと考えています。ただご指摘があったとおり映像資料につきましては、やはり今 YouTube 等で観られるものが増えています。そのような中でも、今研究所で取り揃えているものについては、著作権がしっかりとした団体が作成した、信頼のある資料という形で取り揃えていますので、大切に扱いながら、もう一度学校に周知をして広めていく必要があると思っています。また、もう一点課題として挙げられるのは、ビデオ映像の資料です。今、まだビデオ映像の資料がいくつも残っていますが、その中には貴重な資料もいくつかあります。しかし、今はもう学校ではおそらくビデオデッキはない状況だと思いますので、ビデオ映像をどう映像データとして残していくかについては、研究所の今後の課題と感じています。

三ツ堀主査 : 学校のホームページの不適切なものの検査についてですが、個人情報ですとか、そういった中身についてではありません。ホームページのリンク切れや、構成の見直し、古くなってしまったコンテンツなどについて、訂正や修正を行っているところです。この件数については正確には把握しておりませんが何点かあります。

小坂橋議長 : ありがとうございます。質問についていかがでしょうか。それでは続きまして、今年度の事業についてのご意見を取りたいと思います。ご意見のある方、挙手をお願いします。

米持校長 : 本年度の事業に絡めながら、次年度に向けても話をしてもよろしいでしょうか。私からは教員の育成について、それから理科教育について、横浜国立大学の連携について、カリキュラムセンターについて、最後に5番目として本校の教育情報関係の事情について、お話をさせていただきたいと思います。

まず一点目の教員育成については、この教育研究所の教員研修、それからこれは教育情報担当も含めてですけれども、この教育研究所の取り組みだけでなく、教育委員会全体として、教育指導課・支援教育課・保健体育

課、そして教職員課から学校にくる様々な情報や、それから研修をやっていただいているという部分は、学校現場においても教員の育成、それからキャリアアップに非常に大きな役割を果たしていると実感しています。本当にありがとうございます。学校現場としては、この教員の育成も非常に大きな課題であることを自覚しながら、学校が主体的にやっていかなければならない。なぜならば、やはり学校の先生方の課題は、学校が一番わかっているのです、先生方の課題を捉えながら、学校自体が何を重点に取り組むべきかを明確にして、計画や実施をしていくということが主体なのだろうと思っています。その上で、教育委員会や教育委員会からの予算を活用して外部講師を招いて、いろいろな研修・校内研修をやっていくことも非常に有意義で、やはり学校が主体となってやるにしても、一面的な視点だけではなく、多様な視点からのご意見をいただくということは非常に重要だと感じています。引き続き、教育研究所も含め教育委員会全体としてこうした取り組みを継続する、および発展させていくということにこれからもご尽力いただけたらと思っているのが一点です。

続いて理科教育です。5月に理科教育について私も意見を言い、研修を整理していただいたり、加えていただいたりというところで、本当にありがたいと思っています。コア・サイエンス・ティーチャーの育成については、私自身が理科教員であるということもありますが、私としてはもう少し横須賀市全体として、コア・サイエンス・ティーチャーが増えてほしいという思いはあります。今高校現場におりますと、やはり小中で理科を学んできて、学年が上がっていくと内容が難しくなることもあって、よく「理科離れ」という言葉もありますけど、どうしても苦手意識を持っている生徒が増えてきます。そのこともあって、改善していく、解決していく、問題解決していく、というような理科の楽しさとか不思議さとかを感じてほしいと思います。これらの楽しさを経験できるのは、やはり理科の内容で言うと、生活に非常に密着しているような部分から始まる小学校の低学年、中学年、そこの強化が重要かと思っています。その上で専門的な内容が積み重なっていくところを大事にしていく上でも、小学校は全教科で大変だと思いますが、理科に興味のある先生がいたら、小学校の中でコア・サイエンス・ティーチャーになっていただけるとよいと思っています。あと薬品の話がありましたが、私が2年前に総合高校に着任したときに、すぐに理科担当から相談があって、水銀温度計が処分できなくてずっと困ってい

るとのことでした。早速教育研究所に相談したら、すぐに処分のことについて動いていただきました。やはりそういう困ったことを相談すればレスポンスが来るのだということを学校がみんな知っていれば、もっと学校の中が整理されると思います。それは学校が相談すればいいのですが、逆にそういった情報は時々流していただくのも必要かと感じています。1回言えば、何年もそれが持つとは、やっぱり皆さんも思っていないと思います。ですから1回言っただけでは消えてしまうし、やっぱり定期的にそういう情報を流していただくと、理科室の薬品管理と、危ないものを学校に置いておかないというリスクが減らせると思っています。

3点目、横浜国大との連携についてですが、現在は伊東主査が横浜国大の教職大学院の特任教授をやられていて、非常に横須賀市と横浜国大はつながりがあります。他にも附属鎌倉小学校には、海野先生が副校長として出向しているし、それから何人も小学校中学校の教諭の方が、附属学校で人事交流という形で働いています。こういうところでも人材育成がされていて、特に教諭の彼らは国の研修にも出向いて様々な情報を持って、それをまたその学校で実践して、教育研究を深めているというようなところもあります。まず一つはですね、こういったことをやっていることを、ぜひ研究所だけではなくて、教育委員会の指導主事を中心とした方々に、年に1回ぐらい、それも1人ぐらいは見に行っていたらいいのではないかと思います。確かに研究発表会がありますから、そこで横須賀出身の先生が発表してくれたらそれは良いと思いますが、それだけではなく、そこに行って懇談して「どのようなことしているのか」や、「何を思っているか」「困っているか」など、そのような話までしていただけると、「私って横須賀市とちゃんと繋がっているな」と、また戻ってきたときにすごく力を発揮してくださる礎にもなると思います。もう一つは横須賀市教育委員会が、そういう人材がどこまで育っているのかを把握しているかということ。附属の教員の中には他市から講師依頼をされて、夏に研修講師として他市の教育委員会の研修に出向いて行って、講師をなさっている方も結構います。そういう現場に密着した講師が実はそこにもいて、もしかしたら横須賀から行っている人たちが力をつけてそういうことができるようになっていくかもしれないというところも感じ取っていただけると、また横須賀市にいろいろなリソースが増えてくるということになると思います。

4つ目はカリキュラムセンター取り組みについてですがこれについては本当に今検討中ということで、ぜひ教員に活用しやすいようにしていただければと思います。本を読んで帰られる方が増えているという話も聞いたので、そういったところでも、資料について情報提供がされてくると、ますます活発になってくると思っていますので、引き続き検討等、取り組みをよろしくお願いします。

最後に横須賀総合高校定時制の1人1台端末について、少しお話をさせていただきます。このことは教育情報とはLL教室の機器更改にあたって、本年度は非常に尽力していただきまして、機器更改についての道筋がはっきりしたので、本当にありがとうございました。日進月歩、どんどん発展するものですから、いらぬものは処分し、そして効率化を図り、限られた貴重な予算をどう使うかというところについては、日々検討していかなければならないと思います。そういう中であって、本校の定時制だけが、実は市立学校で唯一、1人1台端末が実現できてないというところなんです。本校の定時制の生徒というのは、小学校や中学校で不登校経験をしている生徒が約5割入学してきます。ですから、小学校や中学校で、Chromebookに触れていないし、そういうものを使った教育に触れてきていないという部分もあります。ですから、定時制としては高校に入ってきたら、ICTを使うという部分での教育もぜひ受けたいと思っています。当然今あるPC教室での固定の端末もありますが、そこに毎回行けるわけでもなく、授業の形態によってはPC教室では授業ができないということがたくさんあります。やはりその日、1人1台端末の活用ができるといいのですが、なにせ義務教育ではありませんので、GIGAスクール構想には入れてもらってないわけです。そうすると、もう財源としては、保護者に買っていただくというのが基本になると思います。しかし子ども達はやはり家庭の経済状況が非常に苦しい子たちも多々います。そういった経済的な支援という形でのことを考えると、例えば市で端末を用意してそれを貸し出すとか、または1人1台端末を買うときに、その経済的な部分のお金の面の支援をすとか、そういうところの調整を図っていただくのはどうしても教育委員会の中でやっていただく必要があると思います。特に、私たちも主体的に動かなければならないというのは重々わかっていますが、教育情報担当におかれましては、教育長からの指示も一緒に私と受けていただいた経過もありますので、ぜひとも令和8年度予算に、そのことが何か具

現化できないということについて、次年度令和7年の夏までには話し合いをして、道筋がつけられないかというところで、ぜひお願いしたいと思っています。私からは以上です。

小坂橋議長： はい。5点いただきました。次の議題の今後に向けてという部分もありますが、米持校長からそれも含めて、お話をいただきました。5つあり、それぞれテーマや思いもありますので、まず1つ、先ほどの教員の育成についてというところについて、もし見解があるならばお願いしたいと思います。最初の教員の育成についての部分いかがでしょうか。

田山主査： 今教員の育成からということでしたが、全体を通して最初に私から見解を述べさせていただいて、あと補足等あれば担当から話をします。

小坂橋議長： 田山主査、よろしく申し上げます

田山主査： 米持校長先生ありがとうございます。まず教員の育成については、校長先生がおっしゃっていただいたように、学校で主体というところはとても大事なところになってくると思います。研究所としても、学校と教育委員会のOJTとOFF-JTの往還というところで、どうしていくかを考えていかなければならないと思います。また、横須賀市研究所として訪問研修というものをご用意していますので、もし校内で研修等ありましたらぜひご活用いただいて、研究所としても学校の人材育成の支援ができればと考えています。

もう一点横浜国大についてですが、横浜国大の連携につきましては、教員の人事交流や、国大の連携講師として今回伊東主査を派遣というところで、連携を深く行っている大学であると認識しています。横須賀市教育研究所としてもこれまでに国大附属の教員をスキルアップ研修講座でお呼びして講師として連携を深めたり、教育指導課で行っている中核教員研修講座では横浜国大附属小・中学校に訪問して、交流を行ったりしているというような内容も聞いております。今後もぜひ横浜国大とは教員育成という視点で交流を深めていきたいと考えています。

理科教員については、本当に先生がおっしゃる通りだと思います。CSTの先生を増やしていくというところでは、指導課との連携が必要になっていくかと思うので、今後も連携を深めて進めていけたらと思っています。

カリキュラムセンターにつきまして、ご意見ありがとうございます。本

当に難しいというのが、前回ご指摘をいただいてから考えてきたところで、一番感じているところです。この時代に沿ったものっていうところで、より使いやすく、わかりやすくというところで、今後も検討してまいります。

定時制の1人1台端末につきましては、教育情報担当から見解を述べます。

三ツ堀主査： 総合高校定時制の1人1台端末の部分につきましては、課内で認識をしていますので、令和8年度を目指して、調整させていただければと思います。

小坂橋議長： 他にご意見ある方はいらっしゃいますか。

三宅校長： 意見というより、感想というかお願いになります。

まず電子黒板に関しては、私の本校の個人的なお話かもしれませんが、導入される前までは着任してからずっと授業改善を言ってきたところですが、本年度電子黒板が導入されて、私が言ってきた授業改善と先生たちの手立てが合致したような感じで、若い先生中心にもものすごくいい形で使用されていると感じています。先日も授業観察のときに、電子黒板でデータを出し、元からある黒板とホワイトボードを使って3面展開で授業やられていて、若い先生すごいなというのを感じたところです。ただ、その良い教材がありながら、生徒の食いつきというか、そういうところのスキルがまだまだだというようなところがあるので、これをどう料理してどう提供するかとこのところが課題ですねという話はしました。そのようなところも含めて、今後研修で意識していただけると嬉しいと思うのがまず1つです。

電子黒板は本当にそういう意味では、私が言い続けてきたことと先生達が何か授業改善しなければというところに合致して、とてもいい形で動いているところです。小中一貫で鶴久保小学校の高橋校長ともお話をしたのですが、小学校の導入もぜひ6年生から5年生と、だんだん下りてくる形で構わないので、そうすることでまた小中一貫でも、使い方とかで連携ができるのかと感じているので、ぜひそのようなところも踏まえながら、導入を進めていただけるとありがたいと思います。これが1つです。

あと、欠席連絡は本当にありがたいと感じています。本校は教頭先生が少しお休みをする機会が多くなったときがありまして、私が職員室にずっといることもあるのですが、朝の欠席連絡の電話がここまでなくなると思

っていなかったので、本当にありがたいとしみじみ感じたところです。

あとは研修のところで、1回目のときにも願いをしたと思うのですが、これから定年延長や、再任用が多くなるようなところで、そういう先生方や、あと総括の先生でも管理職にならずに年齢を重ねていく先生方が、例えば電子黒板1つにしても、諦めつつあるところを感じています。そのようなところも含めて授業展開や教材の使い方、若手と一緒にやっていけるような、年齢が上の先生方の研修を本当に充実していただけるとありがたいというような希望を持っています。よろしくお願ひします。

小坂橋議長： 要望ご意見でした。他はいかがでしょうか。

高橋校長： 意見ということで、年間を振り返って研究所の研修の研修講座の内容が大変に充実していると、現場から見て感じました。これはもう基本研修はもちろんですが、選択研修、それから夏季研修。特に夏季研修は夏休み前に教員が一覧表を見ながら、どれをチョイスしていくかというのを間近で見て、あれだけいろいろなジャンルに分かれて選択できるので、本当に現場から見て感謝しかありません。あれだけ準備をしてくださっていますので、本当にその研修を自分でしっかり身につけて子ども達に返していくことをしていかないといけないと思います。

また先日の管理職研修についても、講師の選定も含めて大変有効でした。校長会を代表して私は来ていますが大変好評でした。管理職として危機管理がテーマでしたが、どういうことを意識してやっていかないといけないのかというのが本当によくわかって、終わった後に何人かと話をしましたが、大変有効な研修をしてくださいました。本当にありがとうございます。

次年度に向けてですが、先ほどお話があったように教育研修プラットフォームというのを、今度は有効に活用していかないといけませんし、あの中にはもうオンデマンドで本当に様々なものが連携してありますので、先ほど所長が言われたように研修意識の転換というのを重点に、次年度に向けて研修講座の充実を図っていただければと思います。以上です。

小坂橋議長： ありがとうございます。今お話を聞いていると今後に向けてお話をさせていただいたので、ここで時間もありますので、次の議題の「2. 今後に向けて」というところにうつります。本年度の懇話会はこれで最後になりますので、今後の研究所の諸事業についてのご意見要望なども含めて、委員の皆様全員よりお話をいただければと思いますのでよろしくお願ひし

ます。

高橋校長 : 本当にありがとうございます。様々な面で現場は助かっているというのを、私は教員の姿を見て実感しております。我々は常にアップデートしていかないといけないと思いますので、研修も環境も先を見据えて、いろいろと予算の面もたくさんあると思いますが、協力しながらやっていただければと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。以上です。

小板橋議長 : はい、ありがとうございます。

米持校長 : 私も先ほどの中で言わせていただいたとおり、教育研究所のみならず、教育委員会全体として、学校に働きかけをしていただいていることには本当に大きな意義があると思います。それをどううまく活用するかは、その学校の主体性も含めた内容だと思って、責任を持ってやりたいなと思っていますので、これからもご支援をよろしく願いします。

佐藤校長 : 私は前任校鷹取で4年おまして、今年大津に行ったとき、前校長は中学や高校を専門でやってこられたので、異動してきたときにすごく教科担任の配置が進んでいると感じました。令和6年からうちの学校は教科担任制を導入はしていますが、その前から実際に算数は教科担任が5・6年の算数をやるというような形がありました。職員室にいると、学級担任であっても職員室にいる時間がすごく長くて、例えば1日、この時間は教材研究に充てる日みたいな感じです。小学校は今クラスに担任がずっといるという形ではなくて、教科担任制というのが今後中学年もどんどん進められていくというような形になっていくとは伺っていますが、そういう中で、2つ不安を感じていることがあります。

例えば理科とか教科担任がやるような教科をずっと持たないまま、苦手意識が非常に強くなってしまっているというところで、単に経験年数で割り振られると30代になってもまだこの教科を1回も持ったことがないとか、音楽などは本当にいます。他の算数にしても理科にしても、そういうことがどんどん進んでいくと、算数は毎日ある教科だけど、まだやったことがないまま数年過ぎてしまうというところで不安があります。あるとき例えば、小さな学校に移動して教科担任がなかなか成り行かなくなり、全教科をやらなくてはいけなくなったときに、自分はどうするだろうかというような不安を持っているという声もありました。小学校は自分の持っている専門の教科の免許がある人もいれば、小学校の免許だけの方もいま

す。その教科の専門性というところも、もっと不安解消になるような、何かできればと感じています。

あと、例えば特性のある子をいろいろな職員が順番に見ていかなければいけないというところで、特別支援系の研修を、みんなで共有したり、見逃し配信があったり、そういうものができる職場の中に持ち帰ってきてから、「やっぱこの子ってこういうところ絶対言えてるよね」、「私達の声かけてもう少しこういうふうに変えていったほうがいいんじゃないのかな」というような、職員で少し取り組めるような研修を、担当者だけではなくて、オンデマンドなどで見られるとよいと思います。特に夏季研修のときは、受付が始まる時間打ち合わせを入れるとすごい苦情が起きます。予約が取れなかった時のためにも、配信制度があるとありがたいと思います。職場でいろいろなことが共有できて、職場の中で話し合えるととてもよいと思っています。いつも本当にありがとうございます。

三宅校長 : 今日はありがとうございました。今もありませんでしたが我々もアップデートしていきながら、学校現場で研修意識の転換をしていきながら、人材育成もしながらというところで、努力をしていかなければというのを改めて思いました。今後も頼りにさせていただきます。よろしく申し上げます。ありがとうございました。

鈴木課長 : ありがとうございます。研究所の事業報告や、また、現場の校長先生方からのお話を伺って、ますます研究所と指導課との連携を強くしていかなければと思いました。これまでも連携というところでは行われてきているところですが、より強い連携を意識したいと思います。

小坂橋議長 : 最後に私からですが、昨日この成果と課題をしっかりと読ませていただいて、研究所の仕事について、まだまだ私も校長でありながら理解できない部分もあったと感じました。今日も質問させていただきましたが、ここに今日参加するのは校長なので、それぞれまた校長会に行って、様々なところで学校を支えていただいているという研究所の事業に関して伝えながら、一緒に連携していきたいと思いました。私はわからないことがあると、研究所に電話をして、どうしても頼ってしまいますが、職員はなかなか教育研究所がどういうことをしているか、あまり理解していない部分もあります。もっと我々も校長会として発信しなければいけないなど今日思ったところでした。去年、chromebook の通知が出ました。あれがとても良く

て、あれを見ることによってすごい理解できたということもありましたので、ぜひ皆さんも、そういう形で発信をどんどんしていただいて、ICTはもちろんです、研修部門に関してや人材育成、それから専門的な領域の具体的なものを、我々に常に発信していただけるベースステーションとして、研究所は打ち出の小づちやドラえもののポケットのような、何か困ったときに教えていただける、そういう機関であってほしいと思います。そういう形でぜひ発信していただきたいのと同時に、我々も校長会や学校会を通じて、先生、職員に研究所の事業について、改めて発信していきたいと思いました。ありがとうございました。本日の議事はこれで終了したいと思います。ご協力ありがとうございました。